

令和2年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）【通信制】

学校教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成
育成を目指す資質・能力	【目的】 多様な生徒の多様な学習ニーズに対応しながら、自立への意志を持って地域の未来をひらく「人財」を育てる。 【資質・能力（霞城8C）】 ①自己肯定力 ②傾聴力 ③読解力 ④思考力 ⑤表現力 ⑥行動力 ⑦自己管理力 ⑧自立力		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和2年度重点目標	評価項目	自己評価	成果（○）と課題（●）	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見等
1 個に応じたキャリア教育の推進	①「キャリアパスポート」の活用 ②外部人材・関係機関との連携 ③高大接続改革への対応	B	① キャリアパスポートは履修登録生徒全員へ配付できた。 ② 進路講話・キャリア学習を実施し生徒参加は昨年比2割増加。 ③ 新大学入学共通テスト受験申込は滞りなく実施。 ① キャリアパスポートの活用が十分されていない。 ② 就職セミナーや模試等で当日キャンセルが数件あった。 ③ 体調等や目標により、一斉の画一的な指導が困難な場合への対応。	① キャリアパスポートの活用を自分の成長と自己肯定感を感じる機会にしている。 ② セミナー等への欠席は、自分の体調や状態を第一に考えてよいことや、その場合にどのように対応するか等を事後指導する。 ③ 生徒本人の状態を保護者の方とも確認しながら、教師や周囲の大人が二社択一の進路選択を迫らず、個々への丁寧な指導が必要である。	B	・キャリア支援への参加呼びかけによる参加者増が評価できる。 ・多様な生き方に触れることが不可欠であり、多様なライフスタイルに触れる支援をお願いしたい。 ・個別の支援計画とキャリアパスポートの類似性に注目してはどうか。
2 授業の充実による学力の育成	①「学びの基礎診断」の活用 ② 探究型学習に関する研究・研修 ③ ICTを授業に取り入れる	B	① 新入生全員に「基礎力判定問題」に取り組みせ、履修指導に役立てた。 ② 総合的な探究の時間を生徒が取り組みやすい学習報告書に改訂した。 ① 学習報告書を通じた「探	① ICT機器の拡充に伴い、生徒の学びに寄与するICTを用いた学習が実践できるようにする。	B	・通信制での探究学習には難しさもあると思うが充実させてほしい。 ・ICT機器を活用し遠距離の方々とのやり取りを通してテーマを掘り下げて学びを深めて欲

			究型学習」をどのように実施していくかの検討が必要。			しい。 ・ICT活用による通信制の授業の在り方の議論が十分なされたのか疑問である。
3 生徒指導の充実による生徒の社会力の向上	①ライフスキル・ソーシャルスキル、自己有用感の向上 ②自主・自律の生活態度と公共心の育成 ③いじめ防止	B	① ライフスキル講座を多数受講し成果を上げた。 ② マナー指導により校内美化、校内での生活態度など落ち着いている。 ③ いじめアンケートによる認知件数0であった。 ④ コミュニケーション能力が改善し自己肯定感が高まる生徒も多かった。 ⑤ 校内各種講座を通し自己の変容が見られた。 ❶ 各種行事や部活動、特別活動の参加による自己有用感の涵養。 ❷ 公共の場での過ごし方の指導。 ❸ いじめ防止につながる生徒の居場所・仲間作りについて。	① 各種行事や特別活動時にキャリアパスポートを活用し、自己有用感の涵養をはかる。 ② 自主・自律と公共心の育成のための生徒会活動の活性化。 ③ 生徒の居場所・仲間作りについての働きかけ。	B	・アンケートにあるように友人を見つけられる場や行事支援等の情報提供が不十分に感じられる。良い取組を生かして改善を願う。 ・コロナ禍に対応してではあるが、級友とのつながりを感じられる取組を工夫して実施してほしい。 ・居場所づくりに協力していきたい。 ・行事参加が苦手な生徒への支援がより重要になると思う。
4 心身の健康増進と安心・安全教育の充実	①自己管理意識の向上 ②家庭や関係機関との連携 ③本校立地に応じた訓練・研修 ④防災・事故予防	B	<学校保健> ① 健康チェックにより自己管理意識が高まった。 ② 新しい生活様式を様々な場面で注意喚起した。 ③ 家庭との連絡は担任が密に行っている。医療機関との連携が必要なケースは保健担当が家庭へ連絡した。	<学校保健> ① 多様な生徒への支援や配慮の工夫。 ② 感染症対策と講座内容の両立。 ③ 感染リスクのさらなる低減。 ④ 外部機関との連携費用の予算化	B	・新しい生活様式は引き続き求められる。メンタルヘルスを含め指導を継続してほしい。 ・医療機関を受診している場合、そのことを学校の先生が話すことに抵抗を感じる保護者の方もいるので配慮が必要で

			④ 保護者の同意を得て、担任・養護教諭・保健主事と主治医との面談を行った。 ❶ コロナ禍での不安が強い生徒への対応。 ❷ 健康チェック時の教員の感染リスクへの配慮。 ❸ SC相談や受診を勧めても、理解が得られずつながらないケースがあった。 ❹ 医療機関との連携時の費用が必要。 <学校安全> ① 通信制のみの防災訓練、定通合同の防災訓練を実施。 ② ビル全体の防災組織と本校の防災組織が有機的に連動するよう、防災チャートの見直し・改訂を行った。 ❶ 「避難経路を知っている」生徒が半分程度で対応が必要。 ❷ ビル全体の防火訓練に参加し避難や救助の手順を確認し防災チャートを更に改善。	<学校安全> ① より多くの生徒が防災訓練に参加するよう、呼びかけを行う。 ② 不審者対策訓練では、実際の場面でもためらわずに通報できるよう、110番通報を実際に行うような内容で企画する予定である。		ある。 ・コロナ禍で今まで以上に不安感を持っている生徒が多いと感じる。若者の自殺が問題になっているので配慮をお願いしたい。 ・体制や制度の強化に努めている点は評価できる。真に必要な生徒にしつかり届く努力が必要である。 <学校安全> ・防災や避難訓練等の取組が評価できる。スクーリングで登校する生徒に対応できる災害備蓄もお願いしたい。
5 特別支援教育の推進	①教育活動のユニバーサルデザインの推進 ②合理的配慮・支援の理解と実践 ③個別の支援計画の作成と実践 ④通級による指導の研究・研修、運用	B	① 配慮を要する生徒一覧を作成し面接指導等で個別に対応をした。 ② ユニバーサルデザインを意識したレポート作成に努めている。 ③ ケース会議や関係者会議	① 現状で可能なユニバーサルデザインの確認と実践。 ② 新入生への個別対応の必要性の迅速な把握。	B	・出校しない生徒の対応は継続的課題である。改善点を検討してほしい。様々な方の意見を伺う機会を設けてはどうか。 ・生徒がユニバーサルデザインの概念に触れるこ

			で支援を検討し、チームで対応する体制を作った。 ⑤ 毎週最新の生徒の情報を共有し全職員で見守ることができた。 ❶ レポートの文字を拡大した場合、枚数の大幅な増加が想定され予算の関係でページ数に制約がある。 ❷ 出校しない生徒の状況を教員が把握する機会が少ない。			とは、社会に出た後もインクルーシブな視点を持って生きていくことにつながる。そうしたことからユニバーサルデザインを意識した教育を希望します。
6 魅力・活力あふれ開かれた学校づくり	①魅力ある生涯学習講座の検討 ②ガイダンス機能を果たす情報発信 ③外部諸機関との連携	B	① コロナ禍により生涯学習講座は中止。 ② ネット動画により学校説明を実施。 ③ キャリア教育、特別支援教育、生涯学習講座運営について外部機関と連携した。 ❶ コロナ禍に対応した生涯学習講座、情報発信、外部機関との連携が必要。	① 感染予防対策を講じて生涯学習講座を実施。 ② ICT を活用し柔軟な方法によりガイダンス機能を確保する。 ③ 生徒の実情を踏まえた多様な外部人材の活用を推進。	B	・コロナ禍に対応した取組の強化が必要である。 ・生徒のニーズ把握に努め、講師選定やテーマ設定をすることで、より深い学びにつながると考える。